

# 紙さん、酪農と二部黎（にべい）さんの思いを訪ねて 畠山さん

11月下旬、紙智子参議院議員とはたやま和也元衆議院議員が、釧根地域の農村地帯で訪問や集いを行いました。今回は、その模様をご紹介します。取り組みのメインは、25日、標茶で開かれた「酪農のつどい」です。この日は、釧根各地の酪農家の方が17人参加してくれました。参加者の多くが



標茶の酪農のつどいで話している紙参議院議員

「マイペース酪農」を実践している農家です。

※マイペース酪農は、農地の面積に合わせて飼育頭数を減らして、堆肥を完熟させて農地に散布。完熟たい肥で健康な牧草を育て、牧草中心の飼育で配合飼料は極力与えない。頭数を減らすので乳量は減るが、配合飼料を購入する必要がなくなるので、収入以上に

経費が減る。仕事時間も短くなる。自然と共生しつつ、身の丈に合わせた酪農で、結果として収益率は規模の大きな農家を上回っている。

輸入飼料の価格が高騰している中で、マイペース酪農への注目が集まっています。

翌日は、矢白別演習場



内に居を構え、創作活動を続けた平和の彫刻家です。

二部さんの作品は札幌や洞爺湖などにも置かれています。矢白別演習場内の美術館にも、多くの作品が展示されています。二部さん、今年10月永眠されました。

## 紙智子さんから感想が寄せられました

晴れるにつれて放射冷却で冷え込みが厳しい釧根地域で標茶町の「酪農の未来を語り合う集い」に参加しました。マイペース酪農にとりくむ40代、50代の皆さんも参加され、酪農の状況とこれからへの思いを語ってくれました。

40〜50頭の牛を飼って乳を搾り、土づくりを重視し牧草で育てる、マイペース酪農は牛にも人にも環境にも優しい牛の飼い方です。最近、「日韓国際環境賞」を受賞したことは喜びです。

それでも、現状は大変で、「規模拡大を要件とする国の酪農政策を変えてほしい」との意見や、酪農と人口減少に危機感があつて、地域の再生が可能となる政治を訴えられました。国政の重要な課題です。

翌日の朝は、矢白別演習場の中にある平和の家美術館にうかがい、先月80歳で永眠された彫刻家の二部黎さんの弔問をしました。この日もひっきりなしに実弾訓練の「ドーン！ドーン！」という砲弾の音が響いています。

ともに歩んだ妻の倉谷あみさんから、在りし日の姿をお聞きしました。「基地はいらない！」と、平和への祈りを作品に込められていたのだと思います。敷地内のいたるところにモニュメントがおかれています。ベトナム戦争で心を病み矢白別で多くの人との交流を深めたアレン・ネルソンさんの人物像、「平和の馬に乗る人」の像もありました。矢白別を平和な土地に、心から哀悼を捧げます。



の中の二部黎さんの美術館を訪ねました。二部さんは自衛隊への土地の売却を拒み、矢白別演習場に住み続けて反戦を訴え続けた川瀬汎二さんに共鳴、晩年は自身も演習場



鶴居村でガザの募金を訴える畠山さん